

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-114678

(43)Date of publication of application : 02.05.1995

(51)Int.Cl. G08B 15/00
G08B 13/196
G08B 25/00

(21)Application number : 05-260959 (71)Applicant : KANTO J C M SERVICE KK
NIPPON RAITON KK

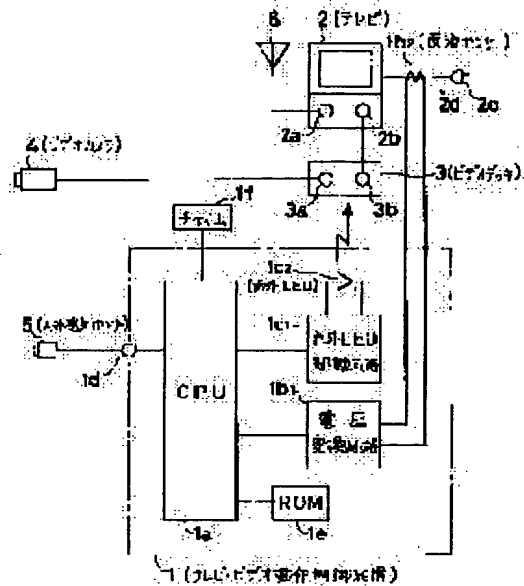
(22)Date of filing : 19.10.1993 (72)Inventor : KANDA MITSUO
KAMIJO AKIHIKO

(54) CRIME PREVENTIVE MONITOR DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent a trespasser from being overlooked and videotape and store only necessary images by securely detecting the trespasser and performing an accurate process.

CONSTITUTION: The device is equipped with a sensing means 5 which is installed in a monitor place and senses a human body, a video camera 4 which photographs the monitor place, a video deck 3 which videotapes the image of the video camera, a television image receiver 2 which projects the image videotaped by the video deck, and a control means 1 which inputs the sense signal of the sensing means to control the operations of the video deck and television image receiver, and videotapes and projects the image of the video camera together with the time; and the control means 1 includes an operation state detecting means which detects whether or not the television receiver is being watched at, and controls the power source of the television receiver 2 and which of the video side and television side the projected image is switched to according to whether or not the television receiver 2 is being watched at or stores and outputs the operation history.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japanese Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-114678

(43) 公開日 平成7年(1995)5月2日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 8 B 15/00
13/196
25/00

5 1 0 M 7323-5G

7323-5G

7323-5G

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全7頁)

(21) 出願番号

特願平5-260959

(22) 出願日

平成5年(1993)10月19日

(71) 出願人 393014305

関東ジェーシーエムサービス有限会社
埼玉県浦和市根岸4丁目14番2号

(71) 出願人 593193000

日本ライトン株式会社
東京都千代田区九段南4-7-16

(72) 発明者 神田 光男

埼玉県大宮市天沼町1-328

(72) 発明者 上條 明彦

長野県東筑摩郡山形村4758

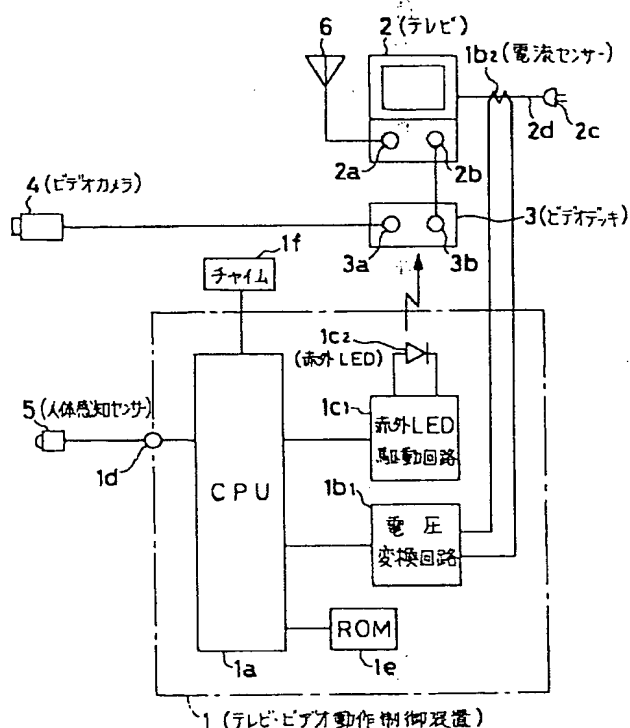
(74) 代理人 弁理士 阿部 龍吉 (外7名)

(54) 【発明の名称】 防犯監視装置

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 確実に侵入者を検知すると共に的確な処理を行って見逃しを防ぎ、必要な映像のみを録画し蓄積する。

【構成】 監視場所に設置して人体を感知する感知手段5、監視場所を撮影するビデオカメラ4、該ビデオカメラの映像を録画するビデオデッキ3、該ビデオデッキに録画される映像を映出するテレビ受像機2、感知手段の感知信号を入力してビデオデッキとテレビ受像機の動作を制御しビデオカメラの映像を時刻と共に録画、映出する制御手段1を備え、制御手段1は、テレビ受像機が鑑賞中であるか否かを検出する動作状態検出手段を含み、テレビ受像機が鑑賞中であるか否かに応じてテレビ受像機の電源と映出する映像をビデオ側かテレビ側に切り換えるように制御し、或いは動作履歴を記憶して出力する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 侵入者や訪問者を監視し、侵入者や訪問者があったとき、これを録画或いはテレビに映出する防犯監視装置において、監視場所に設置して人体を感知する感知手段、監視場所を撮影するビデオカメラ、該ビデオカメラの映像を録画するビデオデッキ、該ビデオデッキに録画される映像を映出するテレビ受像機、感知手段の感知信号を入力してビデオデッキとテレビ受像機の動作を制御しビデオカメラの映像を時刻と共に録画、映出する制御手段を備えたことを特徴とする防犯監視装置。

【請求項 2】 制御手段は、テレビ受像機が鑑賞中であるか否かを検出する動作状態検出手段を含み、テレビ受像機が鑑賞中であるか否かに応じてテレビ受像機の電源と映出する映像をビデオ側かテレビ側かに切り換えるように制御することを特徴とする請求項 1 記載の防犯監視装置。

【請求項 3】 制御手段は、動作履歴を記憶して出力するように構成したことを特徴とする請求項 1 記載の防犯監視装置。

【請求項 4】 複数の感知手段及びビデオカメラを複数の監視場所に設置すると共に、複数のビデオデッキ及びテレビ受像機を設け、制御手段は、各感知手段の感知出力に応じてビデオカメラとビデオデッキ及びテレビ受像機との接続関係を制御するように構成したことを特徴とする請求項 1～3 のいずれかに記載の防犯監視装置。

【請求項 5】 テレビ受像機ごとに接続されているビデオカメラ又は監視場所の情報を表示する表示手段を備えたことを特徴とする請求項 4 記載の防犯監視装置。

【請求項 6】 録画する映像に時刻とビデオカメラ又は監視場所の情報を併せて記録することを特徴とする請求項 4 記載の防犯監視装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、侵入者や訪問者を監視し、侵入者や訪問者があったとき、これを録画或いはテレビに映出する防犯監視装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種のテレビによる防犯監視方法として、監視場所にビデオカメラを設置すると共に、室内に監視専用テレビを設置し、該ビデオカメラのビデオ信号を監視専用テレビに送って常時監視場所の映像を映出することによって、このテレビ映像を監視員が見て侵入者を発見する方法が広く採用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記従来の方法では、監視用テレビを常時監視し続けなければならぬため、監視員にとっては耐久力、集中力が要求され、精神的な負担が極めて大きく疲労の重なる作業となる。そのため監視員の集中力が落ちてくると監視が怠慢になり、また、時には他の一般放送受信用テレビを観てい

て、監視用テレビ画面に表れる侵入者を見逃す事態も生じる。

【0004】 本発明は、上記の課題を解決するものであって、確実に侵入者を検知すると共に的確な処理を行って見逃しを防ぎ、必要な映像のみを録画し蓄積することができる防犯監視装置を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 そのために本発明は、侵入者や訪問者を監視し、侵入者や訪問者があったとき、これを録画或いはテレビに映出する防犯監視装置において、監視場所に設置して人体を感知する感知手段、監視場所を撮影するビデオカメラ、該ビデオカメラの映像を録画するビデオデッキ、該ビデオデッキに録画される映像を映出するテレビ受像機、感知手段の感知信号を入力してビデオデッキとテレビ受像機の動作を制御しビデオカメラの映像を時刻と共に録画、映出する制御手段を備えたことを特徴とするものである。

【0006】 さらに、制御手段は、テレビ受像機が鑑賞中であるか否かを検出する動作状態検出手段を含み、テレビ受像機が鑑賞中であるか否かに応じてテレビ受像機の電源と映出する映像をビデオ側かテレビ側かに切り換えるように制御し、或いは動作履歴を記憶して出力するように構成したことを特徴とするものである。

【0007】 また、複数の感知手段及びビデオカメラを複数の監視場所に設置すると共に、複数のビデオデッキ及びテレビ受像機を設け、制御手段は、各感知手段の感知出力に応じてビデオカメラとビデオデッキ及びテレビ受像機との接続関係を制御するように構成したことを特徴とし、テレビ受像機ごとに接続されているビデオカメラ又は監視場所の情報を表示する表示手段を備え、さらに、録画する映像に時刻とビデオカメラ又は監視場所の情報を併せて記録することを特徴とするものである。

【0008】

【作用】 本発明の防犯監視装置では、監視場所に設置して人体を感知する感知手段、監視場所を撮影するビデオカメラ、該ビデオカメラの映像を録画するビデオデッキ、該ビデオデッキに録画される映像を映出するテレビ受像機、感知手段の感知信号を入力してビデオデッキとテレビ受像機の動作を制御しビデオカメラの映像を時刻と共に録画、映出する制御手段を備えたので、監視場所に侵入者があるときのみ、ビデオカメラの映像をビデオデッキに録画し、テレビ受像機に映出することができる。したがって、テレビ受像機で通常の家庭用テレビ番組を鑑賞していても、映像を切り換えてビデオカメラの映像をテレビ受像機に映出することができ、監視者が留守であっても、後に時刻と共に録画した映像を観ることができる。

【0009】 また、複数の感知手段及びビデオカメラを複数の監視場所に設置すると共に、複数のビデオデッキ

及びテレビ受像機を設け、制御手段は、各感知手段の感知出力に応じてビデオカメラとビデオデッキ及びテレビ受像機との接続関係を制御するように構成したので、監視場所より少ないビデオデッキ及びテレビ受像機で監視映像の録画、映出を行うことができる。

【0010】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面を参照しつつ説明する。図1は本発明に係る防犯監視装置の1実施例を示す図であり、1はテレビ・ビデオ動作制御装置、1aはCPU、1b₁は電圧変換回路、1b₂は電流センサー、1c₁は赤外LED駆動回路、1c₂は赤外発光ダイオード、1eはROM、1fはチャイム、2はテレビ受像機、3はビデオデッキ、4はビデオカメラ、5は人体感知センサー、6はアンテナを示す。

【0011】図1において、ビデオカメラ4及び人体感知センサー5は、監視場所に設置したものであり、監視場所に人が侵入すると人体感知センサー5で感知してビデオカメラ4で監視場所を撮影し映像を取り込むものである。ビデオカメラ4は、時計を内蔵し、映像の撮影時間を記録することができるものである。人体感知センサー5は、例えば焦電センサからなり、監視場所に人が侵入すると、これを感知してその間だけ感知出力としてリレー接点がオンになり、人が退去するとオフとなる。この接点オン、オフ信号がテレビ・ビデオ動作制御装置1の入力端子1dを経て後述するCPU1aに送られる。

【0012】テレビ受像機2及びビデオデッキ3は、監視室等の室内に設置し、例えばリモコン制御可能な一般放送電波受信型家庭用テレビ受像機及びビデオデッキが用いられる。そして、ビデオデッキ3のビデオ映像入力端子3aにビデオカメラ4のビデオ映像出力端子を接続し、ビデオデッキ3のビデオ映像出力端子3bをテレビ受像機2のビデオ映像入力端子2bに接続している。また、テレビ受像機2のVHFまたはUHFの入力端子2aには、アンテナ6で受信した放送電波が入力されている。さらに、テレビ受像機2及びビデオデッキ3は、その主電源を常時オンの状態にし、リモコン信号により電源をオン、オフする待機状態にしている。ビデオカメラ4に時計を内蔵していない場合には、ビデオデッキ3に時計を内蔵したものを用い、録画するときはその録画時刻を記録するものであってもよい。

【0013】テレビ・ビデオ動作制御装置1は、CPU1a、ROM1e、赤外発光ダイオード1c₂、赤外LED駆動回路1c₁、電圧変換回路1b₁、テレビ受像機2が待機状態か動作状態かを検知する電流センサー1b₂、チャイム1fを備えたものである。ROM1eは、予めテレビ受像機2及びビデオデッキ3の動作に必要なリモートコントロール信号及びこれらの信号についてテレビ受像機2が待機状態か動作状態かに応じた発信順を記憶しておくものである。リモートコントロール信号としては、テレビ受像機2及びビデオデッキ3のそ

れぞれ「電源オン」、「電源オフ」、「録画スタート」、「録画停止」、テレビ/ビデオの入力を「ビデオ側に切り換える」、「テレビ側に切り換える」などがある。また、赤外発光ダイオード1c₂は、発光信号を上記テレビ受像機2及びビデオデッキ3の受信ブロックに発信できる位置に設置しており、テレビ受像機2及びビデオデッキ3に所要の動作信号を送るものである。電流センサー1b₂は、テレビ受像機2の電源プラグ2cを有するテレビ電源コード2dに接続して、電源コード2dに流れる電流を検出するものであり、この検出電流が電圧変換回路1b₁に入力される。チャイム1fは、侵入者を検出したときにチャイム音を発生するものである。

【0014】CPU1aは、電圧変換回路1b₁の変換電圧の大小によりテレビ受像機2が動作状態か待機状態かを判別し、人体感知センサー5のオン、オフ信号に応じてROM1eの内容をCPU1aに取り込み、赤外LED駆動回路1c₁を通して赤外発光ダイオード1c₂を発光させる。このようにして赤外発光ダイオード1c₂からテレビ受像機2及びビデオデッキ3の動作に必要な信号を発生させることにより、テレビ受像機2、ビデオデッキ3にその信号に対応した動作をさせる。同時に、チャイム1fよりチャイム音を発生させて報知する。

【0015】次に、人が侵入した場合の具体的な動作を説明する。今、監視場所に人が侵入し、人体感知センサー5でこれを感知すると、そのリレー接点出力がオンになる。このオン信号がテレビ・ビデオ動作制御装置1のCPU1aに入力されると、まず赤外LED駆動回路1c₁を経て赤外発光ダイオード1c₂からビデオデッキ3の「電源オン」の信号を送信し、続けて「録画スタート」の信号を送信する。これらの信号によりビデオデッキ3においてビデオカメラ4からのビデオ映像の録画を開始する。

【0016】一方、テレビ受像機2が待機状態にあるときに人体感知センサー5の人体感知出力がオンになると、CPU1aでは、電流センサー1b₂によりテレビ電源コード2dから検出した電流が微小電流である旨の判別がなされるので、この場合には、まず、赤外発光ダイオード1c₂からテレビ受像機2の「電源オン」の信号を送信し、続けてテレビ/ビデオの入力を「ビデオ側に切り換える」の信号を送信する。これらの信号によりテレビ受像機2の画面にビデオカメラ4のビデオ映像を映出させる。このようにすると、それまで消えていたテレビ受像機2の画面に、突然監視場所の映像が映出されるので、監視者の注意がテレビ画面にひきよせられ、画面の侵入者を見逃すのを防ぐことができる。

【0017】また、テレビ受像機2に一般放送の映像が映出され、監視者がこれを視聴している動作状態にあるときに人体感知センサー5の人体感知出力がオンになる

と、CPU1 aでは、電流センサー1 b₁で検出した電流が大電流である旨の判別がなされるので、赤外発光ダイオード1 c₁からテレビ/ビデオの入力を「ビデオ側に切り換える」の信号を送信する。これらの信号によりテレビ受像機2の画面をビデオカメラ4の映像に切り換え映出させる。この場合も、それまで一般放送の映像が映出されていたテレビ受像機2の画面が突然監視場所の映像に切り換わるので、同様に画面の侵入者を見逃すのを防ぐことができる。

【0018】侵入者が監視場所から退去し、人体感知センサー5のリレー接点出力がオフになると、赤外発光ダイオード1 c₁からビデオデッキ3の「録画停止」の信号を送信し、続けて「電源オフ」の信号を送信する。これらの信号によりビデオカメラ4からの映像の録画を停止する。一方、待機状態にあったテレビ受像機2に対しては、テレビ/ビデオの入力を「テレビ側に切り換える」の信号を送信し、続けて「電源オフ」の信号を送信して、テレビ受像機2を待機状態に戻す。また、動作状態にあったテレビ受像機2に対しては、テレビ/ビデオの入力を「テレビ側に切り換える」の信号を送信して、

テレビ受像機2を一般放送受信状態に戻す。

【0019】図2は本発明に係る防犯監視装置の他の実施例を示す図、図3はリレー接点マトリクス回路の使用情報を記憶するテーブルの構成例を示す図、図4は人体感知センサーごとに録画動作の例を表したタイムチャート、図5はビデオデッキごとに録画時間の例を表したタイムチャートである。

【0020】図2に示す実施例は、複数の監視場所に複数のビデオカメラ1 4-1～1 4-n及び人体感知センサー1 5-1～1 5-kを設置するものであり、通常は各監視場所にビデオカメラと人体感知センサーとが対になって設置されるが、複数の人体感知センサーに対して1台のビデオカメラ、或いはその逆であってもよい。そして、室内に、複数の一般放送受信型家庭用のテレビ受像機1 2-1～1 2-m、ビデオデッキ1 3-1～1 3-m及びテレビ・ビデオ動作制御装置1 1-1～1 1-mを設置すると共に、それらの対応接続及びテレビ・ビデオ動作制御装置1 1-1～1 1-mの制御を行うシーケンス制御装置1 7を設置したものである。テレビ受像機1 2-1～1 2-m、ビデオデッキ1 3-1～1 3-m及びテレビ・ビデオ動作制御装置1 1-1～1 1-mの設置台数は、ビデオカメラ1 4-1～1 4-nの設置台数と同じであってもよいが、シーケンス制御装置1 7により接続を制御すると少なくすることができる。

【0021】シーケンス制御装置7において、ROM1 7 dは、制御プログラムや複数の監視場所をそれぞれ監視する人体感知センサー1 5-1～1 5-kとそれらの監視場所を撮影するビデオカメラ1 4-1～1 4-nとの対応関係を記憶するものであり、RAM1 7 eは、ビデオカメラ1 4-1～1 4-nとビデオデッキ1 3-1

～1 3-m及びテレビ受像機1 2-1～1 2-mとの接続状態を記憶したり、その他の制御のための作業領域として使用するものである。リレー接点マトリクス回路1 7 eは、ビデオカメラ1 4-1～1 4-nに接続するテレビ受像機1 2-1～1 2-m及びビデオデッキ1 3-1～1 3-mを選択して切り換えるものであり、このリレー接点マトリクス回路1 7 eの各リレーを駆動するのがリレー駆動回路1 7 cである。表示器1 8-1～1 8-mは、各テレビ受像機1 2-1～1 2-m及びビデオデッキ1 3-1～1 3-mごとに設けられ、接続されているビデオカメラ1 4-1～1 4-nの番号又は監視場所を表示するものであり、この表示器1 8-1～1 8-mの表示を駆動するのが表示器駆動回路1 7 bである。CPU1 7 aは、人体感知センサー1 5-1～1 5-kの感知出力に応じてROM1 7 dの記憶情報を読み出して人体感知センサー1 5-1～1 5-kとビデオカメラ1 4-1～1 4-nとの対応関係を認識し、リレー駆動回路1 7 cを制御しリレー接点マトリクス回路1 7 eの接続を切り換え、ビデオカメラ1 4-1～1 4-nに接続するテレビ受像機1 2-1～1 2-m及びビデオデッキ1 3-1～1 3-mを選択して切り換えると共に、対応するテレビ・ビデオ動作制御装置1 1-1～1 1-mを制御し、さらに、表示器駆動回路1 7 bを通して表示器1 8-1～1 8-mの表示内容を制御するものである。

【0022】上記のようにビデオカメラのビデオ映像出力は、人体感知センサー1 5-1～1 5-kが侵入者を感知したとき、初めてその感知信号に基づいてビデオデッキ1 3-1～1 3-m及びテレビ受像機1 2-1～1 2-mのいずれかに入力され、表示器1 8-1～1 8-mには、それぞれテレビ受像機1 2-1～1 2-mに映っている映像がどのビデオカメラ1 4-1～1 4-nのものかが表示される次に、動作を説明する。今、人体感知センサー1 5-1のみが侵入者を感知して感知出力がオンになり、他の全ての人体感知センサー1 5-2～1 5-kでは感知していないとすると、シーケンス制御回路1 7のCPU1 7 aは、リレー駆動回路1 7 cを制御してリレー接点マトリクス回路1 7 eの接点e 1-1を閉じる。それによりビデオカメラ1 4-1のビデオ映像出力がビデオデッキ1 3-1及びテレビ受像機1 2-1に入力される。同時にCPU1 7 aは、テレビ・ビデオ動作制御装置1 1-1に人体を感知したことを通知するので、テレビ・ビデオ動作制御装置1 1-1の制御によりビデオデッキ1 3-1にビデオカメラ1 4-1の電源の制御を行ってビデオ映像の録画を行わせ、テレビ受像機1 2-1には画面にビデオカメラ1 4-1のビデオ映像を映出させる。それと同時に、今テレビ受像機1 2-1に映像の映出されているビデオカメラ1 4-1のカメラ番号「1」をCPU1 7 aから表示器駆動回路1 7 bを通してカメラ番号表示器1 8-1に表示する。

【0023】次に、人体感知センサー15-2が侵入者を感知すると、上記同様の動作でリレー接点マトリクス回路17eの接点e2-2を閉じ、それによりビデオデッキ13-2にビデオカメラ14-2の映像を録画させ、テレビ受像機12-2にビデオカメラ14-2の映像を映出させ、カメラ番号表示器18-2に「2」を表示させる。

【0024】その後人体感知センサー15-1による監視場所から侵入者が退去すると、感知出力がオンになるので、CPU17aは、リレー駆動回路17cを制御してリレー接点マトリクス回路17eの接点e1-1を開にしてテレビ・ビデオ動作制御装置11-1にも侵入者が退去したことを通知し、表示器18-1の表示もリセットする。その結果、テレビ・ビデオ動作制御装置11-1は、先の図1の例で説明した動作と同様の動作でもとの状態に戻る。

【0025】次に、人体感知センサー15-3が侵入者を感知すると、CPU17aは、リレー駆動回路17cを制御してリレー接点マトリクス回路17eの接点e3-3を閉じるようにしてもよいが、ROM17fに記憶したリレー接点マトリクス回路17eの動作状態を見て、ビデオデッキ13-1にビデオカメラ14-1が空いているので、リレー接点マトリクス回路17eの接点e3-1を閉じる。そして、上記と同様の動作を行う。それによりビデオデッキ13-1にビデオカメラ14-3の映像を録画させ、テレビ受像機12-1にその映像を映出させ、表示器18-1に「3」を表示させる。リレー接点マトリクス回路17eの動作状態は、例えば図3に示すようなテーブルをRAM17fに記憶することによって行うことができる。すなわち、図3に示すテーブルでは、各ビデオカメラごとに前回の動作接点と現在の動作接点を記憶することによって、現在の動作接点から動作中の列（テレビ受像機及びビデオデッキ）を把握することができ、前回の動作接点から前回と同じ動作接点を優先的に使用し、ビデオカメラの映像をできるだけ前回と同じテレビ受像機及びビデオデッキに出力するようにリレー接点マトリクス回路17eを制御することができる。上記人体感知センサーの感知出力をもとに戻ると、図1の例で説明した動作と同様の動作でもとの状態に戻る。

【0026】上記の動作を人体感知センサーごとにタイムチャートで表すと図4に示すようになり、例えばそれぞれのバーの上に接点番号又はビデオデッキを記入することによって、各監視現場の映像が時刻ごとにどのビデオデッキに録画されたかを表すことができる。また、ビデオデッキごとに録画時間のタイムチャートで表すと図5に示すようになる。これらは、シーケンス制御装置17のリレー接点マトリクス17eの動作履歴を例えばRAM17fに記憶しておき、それを編集することによって容易に生成することができるので、必要に応じてプリ

ント出力するように構成してもよい。このようにすれば、図4に示すタイムチャートからは、各人体感知センサーごとの感知履歴、すなわち例えば人体感知センサー15-1を設置した監視現場で侵入者が感知された時間を把握することができ、図5に示すタイムチャートからは、各ビデオデッキの録画情報、すなわち例えばビデオデッキ13-1にどの監視現場の映像がどれだけの時間録画されているかを把握することができる。

【0027】なお、本発明は、上記の実施例に限定されるものではなく、種々の変形が可能である。例えば上記の実施例では、人体感知センサーにより感知場所に侵入した人体を感知すると、ビデオカメラで撮影した監視場所の映像をビデオデッキに録画すると共に、テレビ受像機にその映像を映出したが、留守モードを設定することにより、留守モードの場合にはビデオカメラで撮影した監視場所の映像をビデオデッキに録画するだけにしてもよい。また、録画時間や録画回数、残時間を表示する表示手段を設けるようにしてもよい。さらには、複数の監視場所を監視する場合には、録画する映像に時刻だけでなく監視場所も合わせて記録してもよいことはいうまでもない。

【0028】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明によれば、人体感知センサーにより侵入者を感知したとき、待機状態にあるテレビ受像機の画面に監視場所の映像を映し出し、または放送番組の映像を映していた動作状態のテレビ受像機の画面を監視場所の映像に切り換えることができるので、常に監視場所の映像をテレビ受像機に映し出した時に注意を喚起することができる。同時にビデオデッキを制御して時刻と共に録画するので、監視の見落としを防ぐことができる。しかも、監視場所に侵入者があるときのみ、ビデオカメラの映像をビデオデッキに録画し、テレビ受像機に映出するので、システムの動作の無駄をなくすることができる。

【0029】また、複数の感知手段及びビデオカメラを複数の監視場所に設置すると共に、複数のビデオデッキ及びテレビ受像機を設け、制御手段は、各感知手段の感知出力に応じてビデオカメラとビデオデッキ及びテレビ受像機との接続関係を制御するように構成したので、監視場所より少ないビデオデッキ及びテレビ受像機で監視映像の録画、映出を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る防犯監視装置の1実施例を示す図である。

【図2】 本発明に係る防犯監視装置の他の実施例を示す図である。

【図3】 リレー接点マトリクス回路の使用情報を記憶するテーブルの構成例を示す図である。

【図4】 人体感知センサーごとに録画動作の例を表したタイムチャートである。

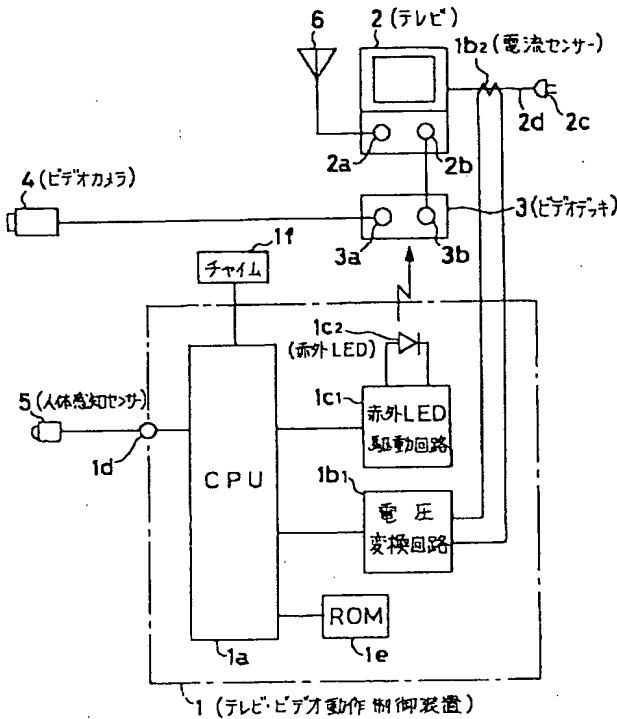
【図5】 ビデオデッキごとに録画時間の例を表したタイムチャートである。

【符号の説明】

1…テレビ・ビデオ動作制御装置、1a…CPU、1b…電圧変換回路、1b1…電流センサー、1c1…赤

外LED駆動回路、1c2…赤外発光ダイオード、1e…ROM、1f…チャイム、2…テレビ受像機、3…ビデオデッキ、4…ビデオカメラ、5…人体感知センサー、6…アンテナ

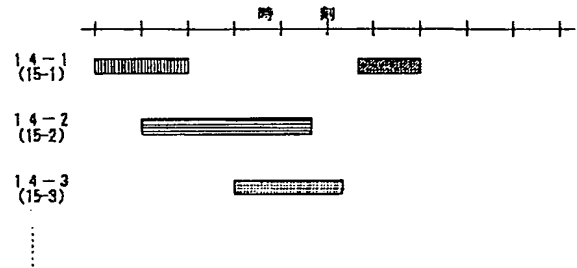
【図1】



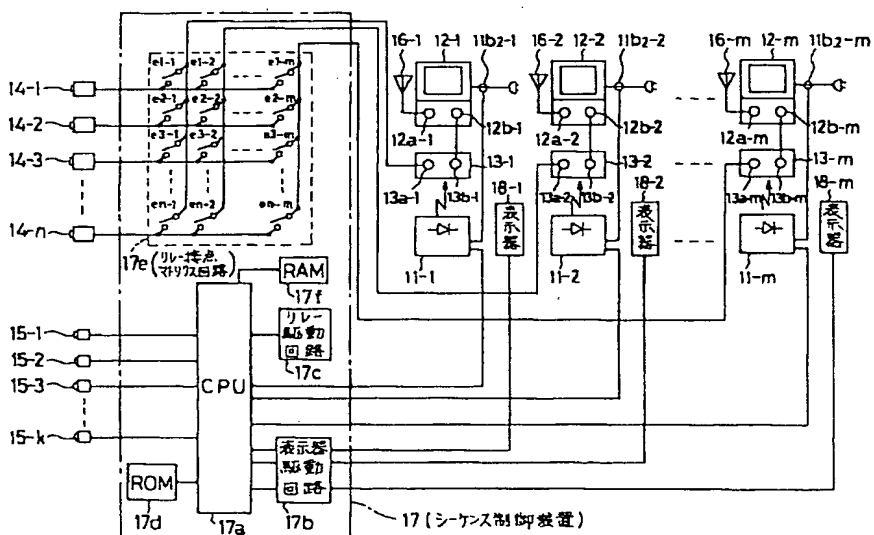
【図3】

ビデオデッキ	(15-1)	前回	現在
14-1	(15-1)	e1-1	
14-2	(15-2)	e2-2	
14-3	(15-3)	e3-1	e1-1
14-4	(15-8)		
...

【図4】



【図2】



【図 5】

